

UNIVERSITY CONSORTIUM Kyoto

<http://www.consortium.or.jp>

財団 大学コンソーシアム京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto

会報

2006.11

NO.

26

CONTENTS

P2~3

学びの座談会

「学び続けることの魅力」

P4~5

第2回

「頑張っています! 京都の大学・短期大学」

特色GPおよび現代GPに採択された取り組み

P6~9

アピール

大学コンソーシアム京都

- ・季刊アカデミア「京都学術共同研究機構」をご存知ですか?
- ・留学生支援事業のご紹介
- ・京都創成大学学報部が見たキャンパスプラザ京都 あ・れ・こ・れ

P10~11

TOPICS

P12

INFORMATION



CAMPUS SHOT

京都光華女子大学・短期大学部
「HIKARU-COURT」

学び続けることの魅力



今回は、社会人として京都で学んでいる方々と、京都地域における社会人学習や京都学に詳しい有識者にお集まりいただき、京都で学び続けることの意義や魅力、また大学コンソーシアム京都に期待することについて語っていただきました。

●●● 私が学び続ける、その理由 ●●●

(司会) 社会人として学ばれているお二人は、何について学ばれているのでしょうか？

(乾) 私はまちづくり推進課で地域と密着した業務をしています。今まで大学は社会人が学ぶには遠い存在でしたが、正規授業が開放され、現役学生の方と一緒に学ぶことに魅力を感じて受講を始めました。まちづくりの推進拠点で働いていますが、知らないことが多いため、都市政策概論を選び、聴講生として学んでいます。

(村山) 私は子育てをしながら働いていますので、時間に拘束されない、メディアを使った通信制大学等を選びました。学生時代は文系でしたので、たとえば先端技術には興味があってもなかなか理解できずにいたのですが、そういったものを社会人になってから学ぼうとして通信制大学に所属したんです。とくに技術やマーケティングの変化などについて学習をしています。



(吉澤) 私は東京生まれで、大学卒業後京都に来ました。よそのものですから、京都を距離をもって見ることができます。新聞社では宗教都市や大学都市としての京都を語る連載を担当し、その時大学取材の縁で大学コンソーシアム京都と関わることになりました。京都学の研究会にも参加し、市民向けの講座を企画し、開設しました。

(司会) 乾さん、村山さんが社会人として学びをはじめた動機、また学んでよかった、と思われるところがあればお聞かせください。

(乾) 自分の思うような事業を創っていくためには知識や能力が必要であり、そのためのスキルアップを目指しました。まだ聴講しからの日も浅く、今は学習の途上にいる状態です。

(村山) 大学時代は法律が専門でしたが、卒業後も法律は変わりませんし、日々勉強して新しい情報を得ないとついていけません。教養的な内容も変わってきていますし、勉強し続けなければいけないと感じています。

(司会) 吉澤さんは新聞社に勤務されており、教育関係にも詳しいと存じますが、京都地域における社会人学習について感じておられる点がありましたら、お聞かせください。

(吉澤) 団塊の世代が大量に退職する2007年問題が注目されます。2007年から5年のうちに、定年退職者1100万人に対し、大学入学者は600万人になります。大学ではシニアが人生80年のうちのあと20年をいかに学びの時間として持ってもらうかを考えています。特に関東の大学では、シニアが学ぶシステムが増えつつあります。現在働いている人の場合は資格やスキルを、働いていない人の場合は教養としての文化や宗教を求める傾向がありますが、とくに京都市民の学習意欲は高いのが特徴です。それに応えることが必要で、その花形になっているのが京都学です。



(村山) 私も大学時代、全国から学生が集まる京都はすごいと思ったんです。当時は学びたいと思って情報も散逸していましたから、京都学というものに大変興味を持ちました。

●●● 学ぶためのハードルを乗り越えて ●●●

(司会) 乾さん、村山さんは、今後さらに継続して学んでいかれる上で障害となることはありますか？

(乾) 仕事と学びの両立は難しい問題ですから、時間がとれた時にいつでもアプローチできる学びの場があるとうれしいですね。また、中断しても再チャレンジできる仕組みが欲しい。そして将来的に、学習したことを地域社会の中で還元できるシステムがあれば有難いです。大学でも公開講座はありますが、統一的な情報発信があれば、ネット検索で受けたい科目にアプローチしていけるのではないのでしょうか。

(村山) 子育て世代は場所的・時間的に制約がありますので、インターネットで著名な方の実際の講演を、好きな時間にオンデマンドで聞けるシステムがあったらいいなと思います。



よしざわ けんきち
吉澤 健吉

京都新聞社報道局長

1950年、東京都生まれ。横浜市立大学卒。2004年10月から現職。京都の宗教、伝統、文化、学術を統合した京都学の構築を目指している。現在、京都学術共同研究機構京都学研究推進部会委員。



むらやま ちさと
村山 千里

大学のまち京都推進会議委員

京都に生まれ育ち、大学時代は法律を学び、卒業後もメディアを利用した通信制大学等で学ぶ。現在子育て中。東山区在住。



いぬい ひさこ
乾 尚子

伏見区役所深草支所 まちづくり推進課勤務

京都に生まれ育ち、京都を愛し、京都市に就職。今春から伏見区役所深草支所まちづくり推進課に勤務。現在シティーカレッジの聴講生として学ぶ。上京区在住。

司会：大学コンソーシアム京都事務局長：上 英之

(司会)では、社会人の学びをよくご存じである吉澤さんからご覧になって、社会人が学ぶ上での課題としてはどのようなものがあるとお考えですか？

(吉澤) 大学に改善してほしいのは入学金が高いこと。普通入学しようと思ったら百万円です。関東などでは社会人は安くしている大学もあるわけで、そのあたりの経営努力を京都地域の大学もしてほしいですね。また学科試験を免除し、レポート提出に替えるといったこともあります。また大学コンソーシアム京都に関しては、教養を深めたい方と将来起業するための資格や知識を得たい方の2つのニーズに応えられるよう、整理して講座を提供したら、受講者は便利だと思います。あと地理的な問題。右京や山科からはやはり遠いですから。

(司会) そうですね。では市内の大学で多数の講座が開設されている中で、どう整理をしてゆけばよいでしょう？

(吉澤) まずはシラバスの整理でしょう。単位互換科目だけで550、社会人に許可されている科目が400もありますから、それらを分かりやすく情報発信する工夫が必要です。

(村山) ネット書店などで、購入リストを顧客ごとにデータにまとめ、購入者が興味を持ちそうな本を紹介してくれるシステムがあります。そういった方法をまねて、勉強したい講座を教えてもらえる仕組みがあるといいですね。

(吉澤) まず学びたい科目を選ぶと、それを深めるにはこれとこれを学ばないとガイドしてくれるような、コーディネーターを置くというのも方法の1つですね。

(乾) まずは興味のあるところにアプローチできて、積み重ねた時に体系的なカリキュラムになっていたというふうになると、学びのプロセスがはっきりしますね。

(村山) シラバスだけでなくコンピュータ上でもアプローチできると、いろんな角度からリストが出てきますし、新たな発見もできそうです。

●●● 学びのメッカ、京都の魅力 ●●●

(司会) 京都で学ぶ魅力は何でしょうか？

(乾) 世界的知名度がある土地ですから、多様な文化が入ってきて交流できる素地があるのではないかと思います。

(吉澤) 京都には日本文化のメッカ。伝統仏教の総本山や伝統文化の家元、京都画壇をはじめアートもたくさんあって、文化コンテンツの宝庫です。

(村山) 教科書に載っている場所へすぐ見にいけるところですね。

(吉澤) 京都は古いものもあり、一方で先端企業もあって、せめぎあっているのがすごい。そして街全体がキャンパスです。先端技術者や手技職人、芸術家もいるわけで、そういう方から学ぶことは多いで

すね。町家で講義を開き、大学では学べないようなものや街の歴史を学べれば素晴らしいですね。

●●● 大学コンソーシアム京都に対する期待 ●●●

(司会) 大学コンソーシアム京都の活動に関する要望、期待、役割についてお聞かせください。

(乾) 学びの拠点となって全国に向けて発信してだけでなく、大学の持つ情報を地域に還元し、活性化につながる形でシステムを組んでいただきたいと思います。また50~60代でもう一度学びたい方が学べるような大学のまちを目指していただけたらうれしいです。今後、退職後も生涯学習を続けていきたいと思っています。



(吉澤) 大学コンソーシアム京都のいいところは、必ずしも教授ばかりでなく、その道の専門家も先生になることです。今後は郷土史家が出前講座で教えるといったこともあるといいですね。

(村山) 京都にはフィールドがあり本物も見られるので、そういう講座をふやしてほしいです。また、子育てや介護で動けない人のためにネットで自由な時間に講義を受けられる講座をつくっていただきたいと思っています。

(司会) 本日は貴重なご意見を多数いただきました。今後、みなさまのご意見を参考にし、市民のみなさまにとって魅力のある学びを続ける仕組みづくりの検討をしてみたいと思います。本日はありがとうございました。

大学コンソーシアム京都の生涯学習プログラムが変わります！

「シティーカレッジ」から「京カレッジ」へ

大学コンソーシアム京都は、京都の各大学・短期大学より提供された科目を一般の市民も受講できる「シティーカレッジ」をスタートさせて10年目を迎えました。2007年度より新たに「京カレッジ」と改め、大学講義を充実させるだけでなく、市民教養講座や資格取得講座、さらには地域社会の活性化に資する人材育成を行う特別コースを設置するなど、社会人の学習ニーズにあわせた生涯学習プログラムへ生まれ変わる予定です。

「頑張っています！ 京都の大学・短期大学」

第2回

新たな改革へのチャレンジ！

加盟大学・短期大学を追求新設コーナー。第2回目は、「平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム」および「平成18年度特色ある大学教育支援プログラム」に選定された取り組みを紹介します。

—平成18年度— 現代的教育ニーズ取組支援プログラム

現代GPとは？

各種審議会からの提言等を踏まえ、文部科学省が社会的要請の強い政策課題に対応した大学・短期大学等における優れた取組を選定・支援するものです。

平成18年度に現代GPに採択された加盟大学・短期大学は？

京都府立医科大学

「大学・地域一体型チーム地域医療教育—医学・看護学教育を通じた地域医療サービスの向上」

同志社大学

「公募制のプロジェクト科目による地域活性化—往還型地域連携活動のモデルづくりを目指して」

立命館大学

- 「人文的知の地域還元で変わる歴史都市京都—「京都歴史回廊プログラム」の展開による地域連携」
- 「IT人材育成のための実践的キャリア教育—専門教育と実践教育を両輪とした国際感覚と高度なITスキルを持った人材の育成—」

龍谷大学短期大学部

「イメージ創生を中心としたキャリア教育—視聴覚教材・学外教育資源・体験型学習を活用した体系的教育プログラム—」

京都工芸繊維大学

「創造性豊かな国際的工科系専門技術者の育成—伝統からイノベーションへ・ローカルからグローバルへ—」

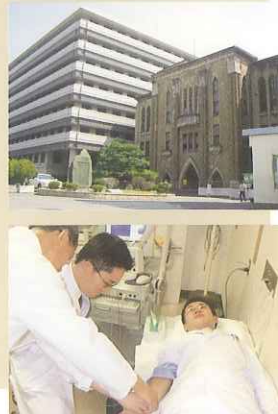
京都女子大学

「女子学生のキャリア教育の体系化と普及—企業、教員、学生の共同による女子学生のキャリア形成プログラムの開発と実施—」

現代GPに採択された企画はどんなものがあるの？

● 京都府立医科大学

京都府立医科大学の取組は、京都府立医科大学が継続的に人事交流等を行っている100以上の地域医療機関のうち、各地域の基幹病院を「医学・看護学教育を通じた地域医療サービス向上プログラム」の実践の場として「京都府立医科大学教育指定病院」に選定し、医学教育研究センターの中核メンバーとして医学・看護学教育に参画するという大学・地域一体型チーム地域医療教育プログラムです。医師、看護師、病院事務職員、地域住民、患者それぞれの視点に立脚した意見を教育指定病院で集約し、医学教育研究センターにおいてプログラムの企画・立案・実践を行なうとともに、学生の指導・評価体制を整備します。「京都府全体がキャンパス」という構想を実現させ、関係病院の医療水準を大学附属病院レベルに引き上げるとともに、将来の地域医療・チーム医療を担う優れた医療人を育成し、住民が安心して暮らせる地域づくりに貢献することが狙いです。



● 京都女子大学

京都女子大学は、中学、高校、大学、そして卒業後までを長期的視野に入れ、特にアジア女性のキャリア教育の体系化と普及に向けた取組を行っています。とりわけ大学生においては、主体的に学生が学習し、納得する就職を実現するために、卒業後の進路等について現実的なイメージを持つことが重要であると考え、このイメージ創生を早い段階から継続的に図るために、就労現場などを題材に自己分析と働く現場と関わって自己を開発する、京都女子大学独自の講座を開講します。また体験型学習も積極的に行います。このイメージ創生は入学希望者や新入生に対して行うとともに、実社会での体験型学習（たとえばインターンシップの事前指導等）としても行います。

さらに卒業後の支援にも力を入れ、卒業生、在学生、教員、企業の交流を促進する仕組みの導入や、専門家による相談体制の整備などを行い、卒業後3～5年または10年を対象にオープンセミナーを開く等、入学前から卒業後までのキャリア支援を継続的かつ体系的に実施する予定です。



特色GPとは？

特色ある大学教育を更に充実・発展させるため、文部科学省が各大学・短期大学が実施している大学教育の改善に資する取組を選定・支援するものです。

平成18年度に特色GPに採択された加盟大学・短期大学は？

京都外国語大学

「チームティーチングによる二言語同時学習」—外国語教育の新たな教授形態—

京都精華大学

「読み書きの実践を通して「考える力」を育てる人文学部の1年生全員を対象としたプログラム」

同志社大学

「情報環境の整備と成績評価の厳格化—学修支援システムDUETとGPA得点分布公表—」

龍谷大学短期大学部

「体験型教育で学ぶ『共に生きる地域づくり』—校区住民と交流する「砂川アクション」と知的障がい者と共に学ぶ「ふれあい大学」の取組—

特色GPに採択された企画にはどんなものがあるの？

● 京都外国語大学

京都外国語大学の取組は、英語を基軸とした二言語同時学習を目指す教育プログラムです。外国語学部の学生は主専攻の外国語と第二外国語の二言語を履修するのが一般的であり、両者は独立した科目として個別に教授されています。この取組では、英語ともう一言語のそれぞれを専門とする教員が、チームティーチングにより同時に教壇に立ち、同一内容の教材を用いることにより授業が進められます。二言語を対照言語学的アプローチにより比較対照し、両言語の発音、語彙、文法、表現、意味における共通点、類似点、相違点を明確にすることで、学習者に個々の言語の特性をより深く明確に理解させ、習得させることができます。この二言語同時学習を実践するために、二言語の融合型CALL教材を用いて練習量を強化し、理解を定着させます。また、比較文化論的アプローチにより言語的側面だけでなく、それぞれの言語圏の事情をも理解する人材育成を進めます。



● 龍谷大学短期大学部

龍谷大学短期大学部の取組は、2つの「体験型教育」の取組を結びつけ、活かしあうことから構成されています。第1は、学生と地元の砂川小学校校区住民組織や砂川地域の高齢者等との交流を通しておこなう、「地域課題に向けて協働する体験型教育（砂川アクション）」です。「地域を良くするトーク会」や「独居高齢者戸別訪問インタビュー」等が主な内容です。第2は、知的障がい者との学習支援を通して協働する「オープンカレッジふれあい大学課程（ふれあい大学）」です。学生は「砂川アクション」で「私も地域の一員である」という自覚を高め、「ふれあい大学」では、すべての人を認め合い、誰も排除せず包み込む地域の必要性を学びます。この両者があいて、学生に「共に生きる地域づくり」に貢献する力が着実に育まれてきました。



● 京都精華大学

京都精華大学の取組「日本語リテラシー」は、人文学部の1年生全員を対象とし、学問の土台である「読む・考える・書く力」を育成するプログラムです。学生が教員やチューターとの対話関係のなかで、文章を読むことや書くことを通じ、思考力と表現力を高めていく、京都精華大学独自の初年次教育プログラムです。

大学での学びの初期段階で、学生の考える力を一挙に伸ばし「自ら調べ、思考し、表現する」自立した学習者への足がかりをつけることを目標としています。初年次に履修する高密度の実践で、大学での学びの楽しさを知ることでできるプログラムです。



「京都学術共同研究機構」をご存知ですか？

京都学術共同研究機構は、京都地域の大学・短期大学の連携により、京都が抱えるあらゆる都市政策課題の研究ならびに地域の優位性に富む学術研究を行い、その研究成果を基盤とした地域・社会への知の還元と都市政策への反映を通じて、世界に誇る「大学のまち・京都」を実現することをめざしています。このページでは、機構の各研究プロジェクトや京都学研究推進部会、21世紀学研究推進部会、都市政策研究推進部会の取組について紹介します。

■ VOICE

2006年度 公募型共同研究プロジェクトをご紹介します！

これからの修学旅行は、感動交流だ！

地域・企業
大学コンソーシアム京都との
地域連携プログラム

京都への外国人小中高生修学旅行の誘致を推進する観光振興研究

プロジェクトリーダー **戸祭 達郎**

(立命館大学経済学部教授)

■ 戸祭 達郎(とまつり・たつろう)

1965年同志社大学経済学部卒業、近畿日本ツーリスト入社、営業、経営企画、学生海外交流、事業開発などの業務、その間通商産業省(現経済産業省)の「民活アドバイザー」として11年間全国の観光・集客施設のアドバイスなどを担当、2000年同社を退職。2001年4月より立命館大学、神戸商科大学(現兵庫県立大学)、大阪明浄大学(現大阪観光大学)、鈴鹿国際大学、四日市大学など経営・観光系学科の非常勤講師。2003年より現職。京都府、滋賀県など自治体から多くの委員を要請され、就任。専門は「観光学」。研究テーマは、「ヘルスツーリズム(旅行療法)」。また「ご当地検定」では、最近マスコミによく登場している。



撮影/中谷丸

このプロジェクトは、財団法人大学コンソーシアム京都の京都学術共同研究機構による2006年度公募型共同研究プロジェクトとして採択されたものです。その活動内容についてご紹介したいと思います。

この研究は、大学コンソーシアム京都の単位互換科目「観光・サ



ービス論」の受講生約80人がレポートとして「観光モデルプラン」を提出するところからスタートしました。つづいて、立命館大学戸祭ゼミ生約20名は直接京都の観光調査を行うとともに、集まった約170プランの中から外国の若者が行きたいと思われる「百選」を選ぶ共同作業を学生たちが行い、委員会において「京都ロケ地巡回ツアー」、「時雨殿」、「島津創業資料館」、環境配慮の「VELO TAXI」、「京都国際マンガミュージアム」などが選ばれました。

さらに、東アジアの中国、韓国、台湾の若者たちに「日本」、「京都」をもっと知ってもらおうと「京都観光百選」の紹介やアンケート調査のため、9月20日(水)、中国・広州の暨南大学、旅遊商貿学校を訪問し、多くの生徒・学生たちと交流しました。私たちが作った「観光百選」を放映・説明し、最後に日本や京都に関するクイズやドラマ「リトルの涙」の主題歌『3月9日』(レミオロメン)を全員で日本語合唱し、歌い終わったときにはみんな感動の涙を流しました。これはまさに「感動交流」でした。



今日の修学旅行には多くの課題があるため、5月15日(月)、生徒・学生の視点にたった旅行企画合同勉強会を共同研究者である京都嵯峨芸術大学の坂上英彦教授のゼミ学生と立命館大学戸祭ゼミ生を対象に行い、京都府の国際担当藤原係長の講話、京都歴史回廊協議会代表幹事の石谷彰男氏の講義を受けました。

7月5日(水)には、学生から見た京都府内のとっておきのお勧め「観光百選」を選定する委員会(大手旅行会社やNPOなどから構成)を開催し、百選の選定に対してアドバイスをいただきました。さらに7月29日(土)に、学生から見た「観光百選」シンポジウム・発表会を立命館大学にて開催し、学生を含めて地域、修学旅行関係者など約130人が参加。服飾評論家の市田ひろみ氏、NPO京すずめ理事長の土居好江氏の基調講演と坂上英彦氏(京都嵯峨芸術大学教授)をコーディネーターにさまざまな討論を重ね、中国人留学生をはじめ、学生たちが「観光百選」を発表しました。会場からたくさんの意見が寄せられ、盛り上がりました。



京都歴史回廊協議会(会長大槻隆彦氏、幹事廣岡裕一氏)、京都商工会議所(専務理事小堀脩氏)、京都府(商工部観光・コンベンション課副室長保科秀氏)、京都市(産業観光局課長西村健吾氏)、大学コンソーシアム京都の紀井義孝氏、学校法人立命館(常務理事高杉巴彦氏)から挨拶やご指導、ご支援を多数いただきました。

将来は旅行会社、地域とタイアップした修学旅行の商品化や大学による教育プログラムの企画、修学旅行での先輩が後輩を案内する企画なども検討しています。

以上の活動報告と中国でのアンケート約140通の集計とその結果を含めて、2007年3月には「報告書」として発表する予定です。



撮影/中谷丸

京都学術共同研究機構の3部会をご紹介します!

京都学研究推進部会

京都学研究推進部会では、研究事業として「京都門前町総合調査プロジェクト」、教育事業として、プラザカレッジ京都学講座「みやこ十二月」、プラザカレッジ京都学特別講座「京の田舎ぐらし」、プラザカレッジ京都学特別講座-京都創生-「茶道と京都」、単位互換コーディネート科目「京都学総論」を実施しています。特に「みやこ十二月」は、全10回の講座を開催し、のべ1,500人が受講する人気企画となりました。情報発信事業では、「京都学・東京プロジェクト2006」を実施し、春の世界遺産講座、秋の伝統文化講座いずれも500名を超える方々が受講しました。



21世紀学研究推進部会

21世紀学研究推進部会では、研究事業として「京都議定書第一約束期間後の地球温暖化防止の国際制度の研究」、「京都の伝統芸能をコアとした海外向けポータルサイト構築・運用実証実験」、「京都への外国人小中高生修学旅行の誘致を推進する観光振興研究」、「移動体メディアへの仏教関連コンテンツの配信に関わる学際的・学融合的研究」の4つの研究プロジェクトを展開しています。11月からは、多くの事件や社会問題の背景を倫理観や価値観を包含するヒトの「こころ」の観点から見つめなおすため、プラザカレッジ21世紀学講座「こころのチカラ」を開講しています。また、昨年度の「京都が地球を救う〜京都議定書発行記念事業・地球環境問題連続セミナー」を踏まえ、プラザカレッジ21世紀学特別講座「地球環境問題連続セミナー」を開講します。



都市政策研究推進部会

都市政策研究推進部会では、京都市の委託による「大学のまち京都課題研究」を行うほか、教育事業として今年度初めて単位互換コーディネート科目「都市政策概論」を開講しました。現在、政策系大学の学生・院生・教員相互の研究交流と発表機会を提供し、相互に評価しあう「第二回政策系大学・大学院研究交流大会」の開催に向けて、学生・院生の実行委員とともに準備を進めています。2007年1月からは、部会として初めての取組みであるプラザカレッジ都市政策特別講座「三都比較の中の地方自治〜京都・大阪・神戸〜」を開講するため、その準備を進めています。また、地域シンクタンク機能として、「京都市事務事業評価サポーター制度」、「京都市政への提案〜政策のタマゴ〜」等にも積極的に取り組んでいます。



お・知・ら・せ

京都アカデミア叢書第2号

「うたのこころ ひとのこころ」を刊行しました!

京都アカデミア叢書第2号は、2005年度に開講したプラザカレッジ京都学講座「和歌〜ひとのこころをたねとして〜」における第一線の研究者による和歌の講演集です。文学的価値が高く、また一般の和歌ファンにとっても魅力的な内容となっています。お問い合わせは、京都新聞開発株式会社(tel 075-231-1101)までお寄せください。(定価1,333円+税)

また、叢書第1号「京都学〜みやこに貢献するアカデミズム」は、キャンパスプラザ京都1階受付で販売していますので、こちらもぜひご一読ください。(税込定価600円)

私たちが京都に集う世界の 留学生たちを支えます！



山本 均

京都学園大学事務職員。2006年4月より財団法人大学コンソーシアム京都に転出。現在、高等教育研究推進事業部において、主に国際交流・留学生支援事業を担当。

Q 留学生事情について教えてください。

A 日本全国の留学生総数121,812名(2005年5月現在)のうち、京都地域で学ぶ留学生は、4,382名と過去最高となっています。(京都地域留学生交流推進協議会「きょうと」より)。このような現状の中で、大学が行政や地域の国際交流団体などと連携し、京都で学ぶ留学生を支援することや交流活動を推進することは大変重要な課題です。



Q 大学コンソーシアム京都ではどんな留学生支援事業を行っていますか？

A 大学コンソーシアム京都では、2005年度に国際交流事業を重点事業として位置づけ、留学生のためのキャリアサポートや相互交流の事業を開始しました。これまでに「留学生のためのキャリアサポート講座」、「外国人学生のための「京都の学び」セミナー(合同進学相談会)」、「留学生のための「京都の企業見学会」」、「留学生のための「ビジネス日本語講座」」を開催し、多数の留学生が参加しています。また日本人学生を対象とした事業としては、「海外留学フェア」を、国際交流企画としては、「Meet in Kyoto(外国人研究者・留学生の交流会)」を開催しています。留学生が不安に感じる就職問題や留学生同士の交流、日本人学生との交流の要望に応えられる工夫を行っています。

Q 参加した留学生からはどのような言葉が寄せられていますか？

<キャリアサポート講座>

A 「就職活動の不安があって参加。参考になり役に立ちました」

「先輩の就職活動体験談が今後の励みになりました」

「具体的な就職活動の流れが理解できました」

<企業見学会>

「蕎麦や湯葉について教わっただけでなく、実際に食べて食べたことが良い経験です。美味しかったです！」

「中小企業の実態に触れることができ勉強になりました。日本で働く元留学生が活躍する姿を見て、今後の就職活動に役立てられそうです。」

「日本、京都の伝統文化、伝統工芸、企業の実態にふれることができるよい機会であり、今後も企画を続けてほしいです。」



Q 京都地域ではどのような留学生支援を行っているのですか？

A 1990年に「京都地域留学生交流推進協議会」が創設され、留学生のために就職講座&ジョブフェアやWebでの情報提供をはじめ、多様な留学生支援活動が展開されています。その構成員である大学コンソーシアム京都は、2001年度から留学生が民間住宅を借りる際に機関保証を行う「京都地域留学生住宅保証機構」の事務局を担っています。年間の保証件数も年々増加傾向にあり、2005年度の保証件数は222件にのぼっています。

Q 今後、どのような事業をお考えですか？

A 大学コンソーシアム京都の留学生支援、国際交流事業は始まったばかりですが、今後も大学連携やスケールメリットを活かし、行政や他の留学生支援団体等とも協力しながら留学生を支援することで、不安を解消できるような様々な事業に取り組んでいきます。とくに留学生のキャリア支援講座や、留学生相互の交流及び日本人との交流活動がますます重要ですね。留学生相互のネットワークの形成や京都文化に対する理解を深めてもらい、個々の留学生が身近な外交官として京都の魅力在海外に伝えてくれることを願っています。



私たち京都創成大学学報部が見た「キャンパスプラザ京都」

今回は、学生の視点でユニークな取材活動を行っている「京都創成大学学報部」の部員の皆さんに、キャンパスプラザ京都について取材を行っていただきました。



増井 舞香さん
京都創成大学学報部
(経営情報学部3回生)



足立 百合香さん
京都創成大学学報部
(経営情報学部4回生・
京都創成大学学報部部長)



増井 明日香さん
京都創成大学学報部
(経営情報学部1回生)

さっそく私たちと一緒に建物の中をのぞいてみましょう！



記事を作る私たちです！

6F
6Fは京都大学、龍谷大学、京都教育大学、京都外国語大学・短期大学、京都産業大学、立命館大学、京都学園大学の大学院等共同サテライトがあります。ここは、大学院授業をはじめ、社会人講座、大学説明会などで使われています。少人数教室で先生と学生の距離が近いのが特徴です。各教室にテレビが設置され、映像や写真を使った授業が受けられます。



5Fの共同研究室をのぞいてみました！



講座の風景です！

5F
5階は講義室や演習室。第1講義室では単位互換の授業が行われていました。他大学の授業を受けることができるのはいいシステムですね。

4F
講義室でちょうど授業がはじまるころにおじゃましました。イスは固すぎず、スペースも十分にゆったり勉強できそうです。ほかにも2つの講義室があり、取材した日も京都産業大学の授業が行われていました。



講義がはじまる前の様子です！

そのほかにも各階にロビーが設けられ、授業の始まる前や合間の休憩時間には交流の場となっています。



3Fには、放送大学
京都学習センターがあります！

3F
放送大学・京都学習センターがありました。スカイパーフェクトTVでの講義が魅力となっています。



和室をのぞいてみました！



2Fのホールです！

2F
3つの会議室のうち圧巻なのは第1会議室。63席ある広さ、テレビ会議システムの設備というこの部屋。私たち、部屋を覗いただけで緊張しました。京都らしい和室の設備もあり、茶道・華道が行われています。坪庭から入る光でとても明るく開放的な空間となっています。



情報交流プラザをのぞいてみました。



大学情報が満載です！



12画面マルチビジョンシステムです！

1F
玄関を入ると、落ち着いた照明の広い静かな空間。そこは「情報交流プラザ」。学生はもちろん市民の方も自由に利用できる情報コーナーです。インターネット、大学案内、掲示などあらゆる情報が得られます。話している声も響かず、安心して友達と勉強できそうですね。正面にドーンと構えるのは、12画面マルチビジョンシステム。大きな画面は情報交流プラザの広い空間のどこからでも見えます。1階には、京都学生祭典事務局がありました。そこでは実行委員の学生が活発に活動していました。また財団法人大学コンソーシアム京都の事務局もありました。

感想

私たちが真っ先に思った建物の「チャームポイント」は、「全館バリアフリーであること」、「駅からの近さ」、「誰でも利用できる利便性」でした。

足立 百合香さん

キャンパスプラザ京都にはたくさんの学びの場があり、人と人との交流が生まれていることを実感しました。

増井 舞香さん

学生同士の交流の場、市民の方たちが学ぶ場として大活躍のキャンパスプラザ京都。もっとたくさんの人を知ってほしいですね。

増井 明日香さん

私はキャンパスプラザ京都を取材して、視野が広がりました。市民も学生も良い刺激を受ける施設ですね。

「京都市大学のまち交流センター」は、市民や地域社会、産業界と大学、そして大学間の交流を促進するための拠点となる施設として2000年9月に完成しました。現在も「キャンパスプラザ京都」の愛称で親しまれています。キャンパスプラザ京都は、2006年4月より大学コンソーシアム京都が指定管理者となり、施設の運営・管理をスタートしました。ぜひ皆さんも一度、足を運んでみてください。



プラザカレッジを開催しました!

●プラザカレッジ京都学講座「みやこ十二月」

京都府・京都市の後援で「みやこ十二月」と題し、京都の1年間の「祭り」や「家庭行事の数々」について解説。2006年5月14日(日)から8月27日(日)にかけて日曜日に全10回実施し、過去最高の延べ1,474名の受講生が受講しました。



●プラザカレッジ京都学特別講座「京の田舎ぐらし」

京都府主催、大学コンソーシアム京都共催で「京の田舎ぐらし」を実施しました。学識経験者をはじめ田舎在住の推理作家、田舎暮らし実践者の方々に講演や対談形式の講座を開催していただき、「農と親しみ、農を支える」というテーマで、現実的な問題や将来展望を考える上での知恵や情報を提供しました。9月3日(日)、10日(日)、17日(日)に計3回実施し、受講者は延べ237名が受講しました。



●プラザカレッジ京都学特別講座—京都創生—「茶道と京都」

京都市、大学コンソーシアム京都主催、京都創生推進フォーラム共催で、茶道の歴史を学ぶ「茶道と京都」を開催しました。伝統工芸の観点からの茶道具についての解説、野村美術館所蔵の美術工芸品の鑑賞、茶釜の独自の伝統技法についての講座など、10月15日(日)、29日(日)、11月5日(日)に計3回実施。裏千家家元千宗室氏をはじめ、茶道と縁のある方を講師にむかえ、受講者延べ477名が受講しました。



京都の大学「学び」フォーラムを開催しました!

2006年度「京都の大学「学び」フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、京都地域全体の大学共同広報および高大連携の教育事業として2002年度より全国各地で開催しているもので、今年も各地の高校生や保護者を対象に各分野の特色ある模擬授業や参加型講座、個別相談等を実施しました。参加した高校生・保護者・高校教員などからは、「多くの模擬授業があって面白い」「大学選びの参考になった」など高い評価をいただきました。

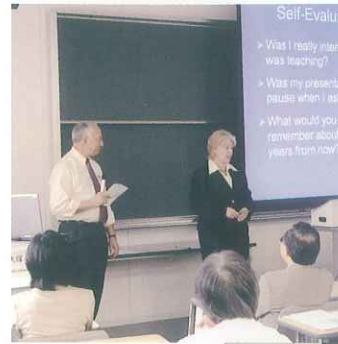
開催地	日時	開催会場
東京	7月9日(日)	キャンパスイノベーションセンター(田町駅)
名古屋	7月16日(日)	河合塾医進館/東大・京大館(名古屋駅)
大阪	7月22日(土)	大阪府教育センター(あびこ駅)
神戸	9月9日(土)	神戸市立科学技術高校(灘駅)
福知山	10月1日(日)	京都創成大学(福知山駅)
京都	10月28日(土)	大谷大学(北大路駅)



京都高等教育研究センターシンポジウム「FDと大学教育改革」を開催しました!

2006年8月10日(木)、「FDと大学教育改革」をテーマに同志社大学において京都高等教育研究センターシンポジウムを開催し、全国から約140名が参加しました。

シンポジウムでは、Pace UniversityのPeter Seldin 教授とNorthern Illinois UniversityのElizabeth Miller助教授より、学生による授業評価がどのように授業改善につながるのか、また具体的な授業改善のための評価方法について、アメリカにおける具体的な事例を交えた講演をいただきました。講演の後のディスカッションにおいても熱心な討議が行われました。



(コーディネーター:大塚雄作京都大学教授、指定討論者:圓月勝博同志社大学教授)



第4回SDフォーラムを開催しました!

2006年10月15日(日)、キャンパスプラザ京都において「第4回SDフォーラム」を開催しました。開催テーマを「大学マネジメントにおける教職協働」とし、大学が高等教育機関としての使命を果たすため、教員・職員が協力して大学マネジメントを担うことの意味を考える機会とすることを目的としました。

第1部は、国際基督教大学名誉教授の絹川正吉氏を講師に招き「SDとFD~大学マネジメントにおける教職協働と職員の育成~」をテーマに、教員の視点から職員のあり方や大学運営における職員の役割など、刺激的な講演をいただきました。第2部では、5つの分科会を開催し、「人事評価システム」、「人材育成・人事制度」、「組織再編」等について報告がなされ、活発なディスカッションを行いました。

当日は、北は北海道、南は九州まで162名の参加者が集い、盛況のうちに幕を閉じました。



第4回京都学生祭典が開催されました!

学生がプロデュースし、産・学・公・地域のALL京都で支援する「第4回京都学生祭典」は、10月7日(土)京都駅ビル、8日(日)岡崎・平安神宮周辺にて2日間に渡って開催されました。

大学コンソーシアム京都加盟の大学・短期大学の学生を中心に、452名の実行委員と京都学生祭典オリジナルのおどり「京炎 そでふれ!」のおどり手362名が、「みんなでつくる“一つ”の祭り」をコンセプトのもと、京都に根付く祭りとなることを目指し、この1年間活動してきました。

両日とも天候に恵まれ、祭典初日の京都駅ビルには21,000人を集め、開会式典の後、多彩なパフォーマンスが繰り広げられました。祭典2日目は、神宮道での保育園児等によるパレードを皮切りに、小学生から80歳のおどり手を含む団体による全国おどりコンテスト、全国学生音楽コンテスト、そして各大学や協賛企業が出店した模擬店「縁日」に加えて、1日限りの夢のオーケストラ、京都で撮影された映画のプレミアム上映会等の企画を実施。夜には都市公園をイルミネーションでライトアップを行い、そして、今年の

京都学生祭典の締めくくりとして、平安神宮境内での6,000人の総おどり(Grand Finale)を行いました。2日目に参加した153,000人もの人々は、京都の学生のパワーと文化を堪能しました。



京都国際学生映画祭2006が開催されました!

2006年10月8日(日)、9回目を迎える「京都国際学生映画祭」が、第4回京都学生祭典で幕開けし、10月20日(金)から22日(日)に同志社大学寒梅館、10月21日(土)から27日(金)に京都シネマ、10月24日(火)に新京極シネラリーベの3会場にて上映が行われました。

コンペティション作品には世界27ヶ国298本の映画の応募があり、その中から10本の入選作品として同志社大学寒梅館で上映されました。22日(日)には受賞作品の発表があり、グランプリはありませんでしたが、準グランプリにポーランドとイスラエルの学生が制作した作品が選ばれました。また、京都シネマでは高校生による作品や、過年度にコンペティションで入選した監督作品まで学生映画の全容を見渡せるプログラムが上映されました。さらに、新京極シネラリーベでは、新京極映画祭と連携し、京都の大学の映画サークルの連合体「京都シネック」が制作した作品を特集上映しました。国内外から多くの観客と監督が来場し、国際色豊かな1週間となりました。



芸術系大学作品展2006が行われました!

2006年11月7日(火)から26日(日)まで、芸術系大学作品展がキャンパスプラザ京都にて開催されました。今年度は7回目を迎え、京都の芸術系10大学(池坊短期大学、京都嵯峨芸術大学、京都工芸繊維大学、京都教育大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、大阪成蹊大学芸術学部、成安造形大学)から68名の学生による61点の作品が展示されました。キャンパスプラザ京都の利用者を含め、多くの市民の方々の目に触れ、京都の秋を彩りました。

今年度からは、芸術系大学作品展の関連企画として「京都学生アートオークション」を開始しました。2006年11月から2007年1月まで月1回の連続講座を行うとともに、2007年2月に展示とオークションを実施し、出品学生はアートマーケットに触れることで、自分の作品がマーケットからどのような評価を受けるかを体験します。



インターンシップ実習が行われています!

大学コンソーシアム京都が実施するインターンシップ・プログラムが行われています。この夏も多くの学生が企業や行政機関、NPO法人等で実習を行いました。今回は、大学コンソーシアム京都でインターンシップ実習を行った安永容子(京都女子大学3年生)さんが、京都パープルサンガにインターンシップ実習した3名の皆さんにインタビューしました。

インターンシップ実習生がインタビューを敢行!

●安永 容子さん(京都女子大学3年生)

Q.京都パープルサンガにおいてインターンシップ実習を希望したのはなぜですか?

A.率直にサッカーが好きで、サッカーの舞台裏を見なかったからです。実習を通してサッカーの発展とJリーグの隆盛に貢献したいと考えるようになりました。自分にあう仕事探しにも、プロの意識を持って取り組みたいです。

Q.実習中はこういったことを行っていますか?

A.子供達にサッカーを楽しんでもらうサマーキャンプを企画したり、その中で企業との交渉を行ったりしています。

Q.インターンシップでの実習を通して何を学びましたか?

A.子供達との接し方の難しさや、マナー、保護者との接し方などを身につけたと思います。さらにプロとしての意識やリーダーとして意識も高まりましたね。

Q.実習において何を一番重視していますか?

A.仕事に対する情熱を忘れないことです。

Q.この実習を体験して、楽しかったことを教えてください。

A.業者との交渉がうまくいった時。キャンプを企画するのは大変だけど、出来上がって子供達が喜んでくれているところを見た時はうれしいです。



インターンシップ実習中にも関わらず協力していただいた京都パープルサンガの皆様、そしてインタビューに応じていただいた鎌谷有紀子さん、松岡透さん、吉本有希さん、ありがとうございました。

第3回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムを開催します!

「大学の構造改革と産・官・学・地域連携の役割」をテーマに掲げ、基調講演、シンポジウム、5つの分科会、ポスターセッションからなるフォーラムを催し、発展段階にある大学連携のあり方について、積極的な議論を行います。大学コンソーシアム京都の加盟校からも、多数のご参加をお待ちしております。

- 日時：2006年12月9日(土)、10日(日) ■ 場所：中央大学多摩キャンパス
- テーマ：大学の構造改革と産・官・学・地域連携の役割
- プログラム



1 日目 (12月9日)	基調講演・ パネルディスカッション (13:10~16:20)	【基調講演講師】 清成 忠男(前法政大学総長) 【パネリスト】 ・北川 正恭(早稲田大学教授、元三重県知事) ・板東 久美子(内閣府男女共同参画局長、前文部科学省大臣官房審議官) ・仙道 富士郎(大学コンソーシアムやまがた会長、山形大学学長) ・八田 英二(大学コンソーシアム京都理事長、同志社大学学長) ・有信 睦弘(株)東芝執行役常務
	ポスターセッション (12:00~16:45)	各大学コンソーシアムより、それぞれの特徴ある 取り組みの紹介出展をします。
	情報交流会 (17:00~18:30)	参加者相互の情報交流・懇親の場として開催します。

2 日目 (12月10日)	分科会 (10:00~12:00)	【第1分科会】「大学間連携」 【第2分科会】「産官学地域連携」 【第3分科会】「小中高大連携」 【第4分科会】「大学連携における 広報発信の役割」 【第5分科会】「コンソーシアムの 組織運営」
---------------------	----------------------	--

※詳細は下記にお問い合わせください。
大学コンソーシアム京都 全国大学コンソーシアム協議会事務局 (担当:中元)
電話：075-353-9100 FAX：075-353-9101
E-Mail：nakamoto@consortium.or.jp
URL：http://www.consortium.or.jp/consortium/
zenkokuconso/index.html

第4回高大連携教育フォーラムを開催します!

2006年12月15日(金)、キャンパス
プラザ京都において、第4回高大連携教育
フォーラムを開催します。今回の高大連携
教育フォーラムは、初等中等教育の現状と
高等教育の現状を共有するため、学力構
造の変化と今後の初等中等教育の方向性、
大学AO入試の動向などを考える「基調報
告」と、各教科での高大連携の可能性につ
いて考える「分科会」を行います。



- 日時：2006年12月15日(金) 13:00~17:30 ※受付開始12:00~
- 場所：キャンパスプラザ京都
- 募集定員：基調報告/150名程度 第1~5分科会/各30名程度
- 参加費：1,000円(資料・レジュメ集合含む) 当日受付にて徴収いたします。
- プログラム

第1部 基調報告「学力構造の変化と高大連携の可能性」 「ポストAO入試の課題」

- 荒井 克弘(東北大学 教育学部 学部長)
「高大連携のゆくえ~中教審教育課程部会での審議から~」
- 荒瀬 克己(京都市立堀川高等学校 校長)
「京都高大連携研究協議会による高大接続教育
プログラムの試行-表現技法の習得-」
- 中村 博幸(京都文教大学 人間学部教授)
- 木村 雅則(京都府立西宇治高等学校 教諭)
- <コーディネーター>
- 棕本 洋(立命館大学 高大連携推進室教授)



第2部 分科会

- 【第1分科会】 大学教育の基礎としての文章表現と教科「国語」をどの様に接続するか
- 【第2分科会】 「論理的思考力の育成に必要な数学における国語力」とは何か
- 【第3分科会】 普通科における「英語」を接点とした高大連携の課題と可能性
- 【第4分科会】 理科教育の高大連携の発展はどの方向に?-大学の関わり・学会との連携-
- 【第5分科会】 就業体験によるキャリア教育の可能性

申込み方法

参加希望の方は、ホームページより申込書をダウンロードの上、
ファックスを送信してください。(11月30日〆切)
なお、定員になり次第、募集は締め切らせていただきます。
http://www.consortium.or.jp/examinee/kodai/forum.html

第二回政策系大学・大学院研究交流大会 「京都から発信する都市政策」を開催します!

2006年12月10日(日)、政策系大学・大学院の学生・院生・教員相互の研究
交流と発表機会を提供し、内容を相互に評価しあうことによって、それぞれの
教育や研究の成果を実際の政策や地域の課題につなぐ「第二回政策系大学・大
学院研究交流大会」を開催いたします。パネル発表、口頭発表、特別報告、シ
ンポジウムなどを行い、表彰式・懇親パーティーでの交流の場も設けています。

- 日時：2006年12月10日(日) 10:10~ ※受付開始9:30~
- 会場：キャンパスプラザ京都
(2F会議室・ホール、5F講義室・演習室)
- 主催：大学コンソーシアム京都
- 参加費：500円(発表論文集代含む)
- 懇親パーティー参加費：2,000円
- 参加方法：当日受付(キャンパスプラザ京都 1F 特設受付)
- お問合せ先：政策系大学・大学院研究交流大会事務局
(075)353-9100 kiko@consortium.or.jp



大学コンソーシアム京都スポーツクラブにご参加ください!

大学のまち・京都には、多くのスポーツクラブが
存在し、国内外で活躍する選手や指導者を輩出
しています。また、スポーツ施設も充実しており、そ
こを拠点として地域との連携も進められています。



「大学コンソーシアム京都スポーツクラブ」は、これらの力を集結し、スポ
ーツ振興を実践し、京都のまちづくりを進めています。2006年度はこれま
で卓球、サッカー、バスケットボール、レガッタ、ニュースポーツ、バトン&チア、
アーチェリー、パドミントンなどのスポーツ教室を開催し、地域の児童や親子
が参加できる取り組みを行ってきました。今後は剣道、バレーボール、フラ
ッグフットボールを行う予定です。ぜひお問い合わせの上、ご参加ください。

実施日時	教室名	場所	対象	参加費
11月11日(土) 9:00~12:00	楽しく学ぶ剣道	龍谷大学深草学舎体育館	小学生	1,000円
12月17日(日) 9:00~16:00	女子バレーボール	京都産業大学総合体育館	中学生	1,000円
1月14日(日) 9:00~16:00	男子バレーボール	京都産業大学総合体育館	中学生	1,000円
未定	フラッグフットボール	未定	小学生	1,000円

参加希望の方は、ホームページより申込書をダウンロードの上、郵便、
ファックス、E-mailにてお申込みください。
http://www.consortium.or.jp/consortium/sportsclub/index.html

COVER PHOTO



今回のCOVER PHOTOである京都光華女子大学・短期大学の「ヒカルコート」は、京都の大学では
初めてとなる屋上庭園。京都の街並みや山々を見渡すことができ、さまざまな樹木や草花に囲まれて四季折々の
趣が楽しめる庭園は、短期大学のガーデンデザイン実習施設として、また屋上緑化と太陽光発電の効果で
CO₂の削減を実践する「生きたエコロジー教育の場」としても活用されています。この他、学生の憩いの場とし
てはもちろん、講座や地域の方が参加できるイベントも開催されています。